



2.2

5歳未満の子供の発育障害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対応を行う。

3.3

2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。

4.2

2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。

草野 薫

歯学部

口腔インプラント学講座

骨再生治療とインプラントを併用した 咬合機能の回復

インプラント治療が行われ半世紀が経ちました。インプラント治療は10年生存率が98%を超える予知性の高い治療です。しかし、骨移植を伴う難症例も多く、インプラント治療を受けることができない患者も多くおられます。骨移植は古くから自家骨が用いられ、その採取には、大きな手術侵襲を伴うため、患者の負担が大きくなります。近年、すぐれた骨移植材の開発により、骨再生治療とインプラント治療を安全・安心に受けることが可能となり、多くの患者の咬合機能回復に寄与するものと考えます。また、卒後研修の一環として当科主導でCEセミナーを開催し、最新のインプラント治療が可能な歯科医師育成にも努めています。



message

インプラント治療により咬合機能回復することは、口腔機能のみならず全身の健康増進につながるものと考えます。優れた歯科医師育成と最新の治療を安全・安心に受けて頂くため治療環境作りにも努めます。